

「鑄造品の評価技術研究部会シンポジウム」のご案内

主催 公益社団法人 日本鑄造工学会

共催 地方独立行政法人 東京都立産業技術研究センター

鑄造品の評価技術研究部会 部会長 後藤雄治

テーマ 「鑄物の実体評価に向けた評価技術の複合化」

鑄造品の品質に対する要求は年々厳しくなり、その品質を達成するためには鑄造プロセスのみならず評価の重要性が増すばかりです。鑄造品は肉厚などの形状の条件、溶湯処理など鑄造条件によりその強度特性が変わるため、鑄造品への要求レベルが高まるほど、製品としての鑄造品に対する検査技術、特に非破壊的手法の重要性が増します。現在、様々な非破壊試験方法が利用されていますが、種々の欠陥に対する検査方法として万能な評価技術は存在しません。各評価手法の特性を理解した上で、鑄造品に合わせて複数の手法を組み合わせるなどの工夫が必要となります。

そこで様々な非破壊試験手法を鑄造品へ適用することを念頭に、①鑄造品における試験・検査の役割、②鑄造品の欠陥評価手法の比較、③鑄造品に適用可能な種々の評価手法、という構成でシンポジウムを企画いたしました。皆様のご参加をお待ち申し上げます。

< 記 >

1. 日時：2026 年 3 月 10 日（火）10:00～15:55

2. 開催方式・会場：ハイブリッド式

（会場）東京都江東区青海 2-4-10

東京都立産業技術研究センター本部 イノベーションハブ

(<https://www.iri-tokyo.jp/access/access-headquarters/>)

3. 参加費：会員 13,000 円、学生 1,000 円、非会員 26,000 円

（※参加費にはテキスト（研究報告書）を含む）

4. 募集人員：会場定員 50 名、オンライン（Zoom）

5. 申込締切：2 月 25 日（水）までに、日本鑄造工学会ホームページ（<https://jfs.or.jp>）の「シンポジウム申込フォーム」からお申込み願います。

※オンライン参加の場合、テキストの送付が開催日に間に合わない場合がございますが、当日は WEB サイトで閲覧できるようにいたします

6. お問合せ先：（公社）日本鑄造工学会事務局

〒108-0023 東京都港区芝浦 4-15-33 芝浦清水ビル 2 階

TEL:03-6809-2303, FAX:03-6809-2330, E-mail:jfes@jfs.or.jp

= (プログラム) =

10:00~10:05 開会の挨拶

10:05~12:00 基調講演(115 分)

① 鋳造品の非破壊試験手法とその意義 —何をを使って、何を見るか—

堀川紀孝（旭川工業高等専門学校）（55 分）

② 鋳造欠陥（キズ）の有害-無害は何によって決まるか

—破壊力学による欠陥の有害度の評価—

野口徹（北海道大学名誉教授）（60 分）

12:00~13:00 昼休み

13:00~14:15 鋳造品の評価技術研究部会共同研究（75 分）

引け巣評価の手法の検討

① X 線探傷試験・X 線 CT による評価

永井寛（元埼玉県産業技術総合センター）

② 超音波試験による評価

鹿毛秀彦・藤島晋平（日下レアメタル研究所）

14:15~14:30 休憩（15 分）

14:30~15:50 鋳造品に適用可能な種々の評価手法(80 分)

① アルミ 鋳物の時効処理実験における速度論的手法と非破壊評価の活用

池田朋弘（熊本県産業技術センター） 40 分

② 電磁力加振による鋳鉄内部の引け巣測定手法の提案

丹羽章太郎（群馬大学） 40 分

15:50~15:55 閉会の挨拶

以上